資料３

HIROSHIMA YPV YOUTH PEACE VOLUNTEER

核抑止から核廃絶へ
若者の行動が生み出す力

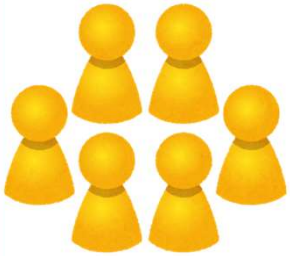
ユース・ピース・ボランティア
北薗いろは　中村香穂里

ユース・ピース・ボランティア

HIROSHIMA YPV YOUTH PEACE VOLUNTEER

活動・成果

平和記念公園で外国人観光客に向けて英語でのガイド活動



138
メンバー



1,632 名

61 ヶ国



専門研修で提言作成

参加者：広島県の大学生10名

学び：被爆の実相、核廃絶、国際関係

成果：各グループでの核廃絶に対する提言
作成・発表



2025年11月～2026年1月
専門研修　研修会

2026年　2月21日～22日
長崎研修（長崎ユースとの意見交流、
長崎原爆資料館訪問）

2026年2月～3月
グループごとで
オンラインディスカッション

2026年3月29日
提言発表

9月　対話イベントの開催予定

HIROSHIMA YPV YOUTH PEACE VOLUNTEER

SNSを通じて、核抑止が抱える不安定さについて発信し、核兵器廃絶への理解と支持を拡大するとともに、関連する政策の実現を促進する。

GroupA



現状

脅威に依存した安全保障

核抑止には限界があり、真の安全保障を実現することはできない。

そのため、核兵器廃絶が必要である。

グループAの提言する相手

核抑止を支持する学生

核兵器廃絶を目指す学生

↓

核兵器廃絶がなぜ必要なのかを深く理解し、その必要性を分かりやすく説明することが重要である。

活動方針



複数のSNSを活用する

例）

- 共通のハッシュタグを通じて意見や考えを共有する
- 核抑止が抱える危険性についての動画を発信する

若者の連帯で核産業を平和産業へ

Group B



背景・問題意識

長崎研修で得た多くの学び

- 多くの若者は核軍縮の必要性を理解しているが、具体的に何をすべきか見出せていない。
- 若者同士のつながりが行動への第一歩である。
- 一部の国では、核兵器関連産業が経済や雇用を支えている。

若者で平和について気軽に話し合える プラットフォームを作成

- SNSを活用して活動を広める

  #Peace Generation

- 平和について気軽に話せる場を設ける

  ex. カフェイベント



地方自治体との連携

若者による活動を社会全体へ広げていくためには
地方自治体との連携は不可欠

⬇

若者が主体となる平和イベントを企画・運営する



ex: Peace Night Hiroshima 2025
（広島の中学生、高校生が主体となって企画）

広告を活用して企業にアプローチする





広告を活用して企業に働きかける

⬇

企業と連携する

⬇

平和の重要性への理解を促進する

⬇

企業の政策や投資判断に影響を与える

⬇

平和志向の産業への転換を促す

NPT派遣で得た学び

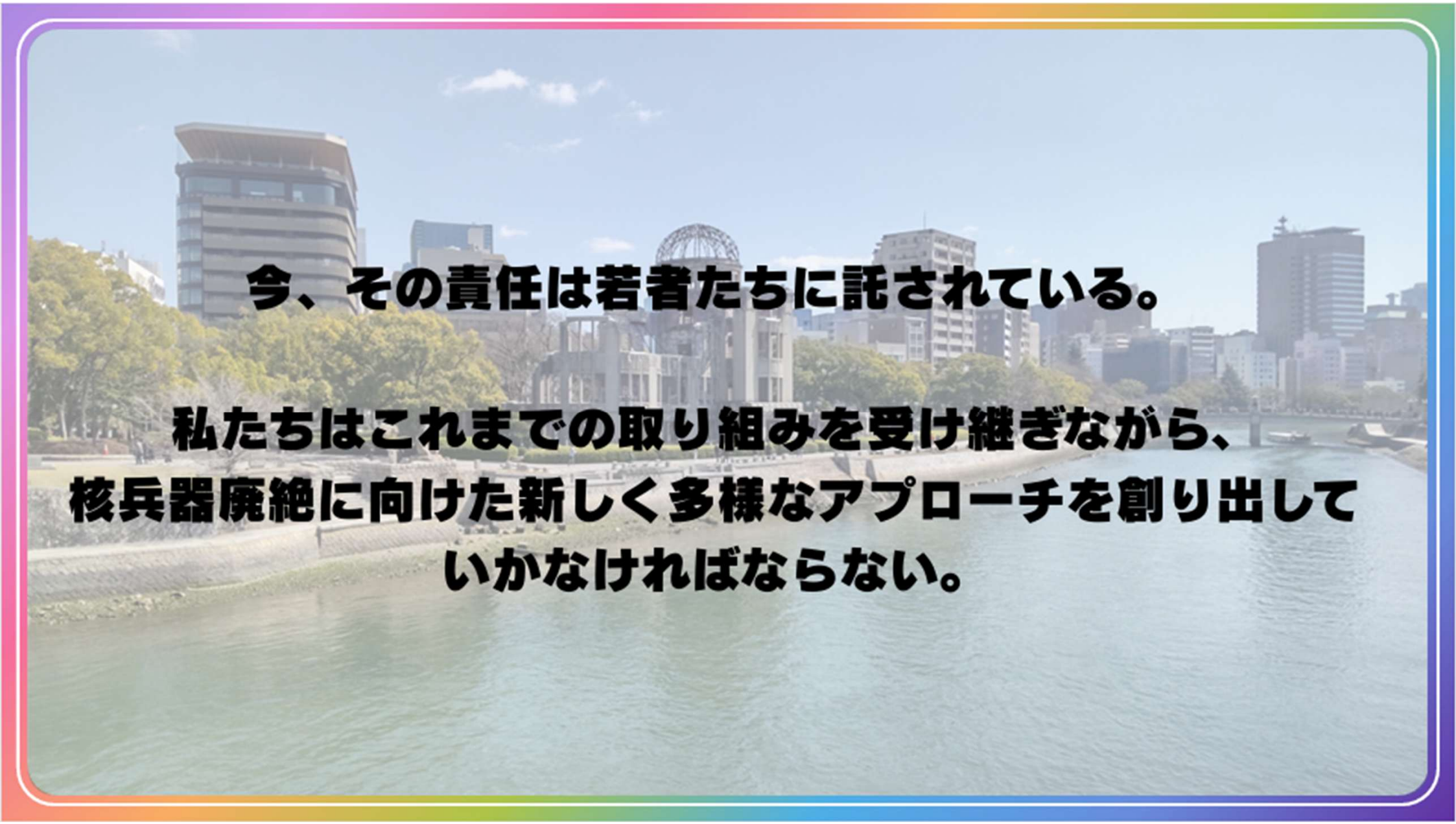


- 理想と現実のギャップ
- 価値観をすりあわせ、共通項を見出すための対話
- 若者が原動力となる重要性
  → 「仲間づくり」の重要性

対話イベントで行いたいこと

平和記念資料館を訪れた外国の方・日本の方(10~30代の若い人たち)と、その人たちが資料館を見て「どう思ったか」「何を感じたのか」を聞いた上で、平和な世界を作るしくみなどを話し合う機会を設ける

⇒ 令和8(2026)年9月12日(土)、13日(日)、19日(土)に平和記念資料館東館1階で実施予定
(被爆体験証言者も参加見込)


今、その責任は若者たちに託されている。
私たちはこれまでの取り組みを受け継ぎながら、
核兵器廃絶に向けた新しく多様なアプローチを創り出して
いかなければならない。

Thank you for listening!

ユース・ピース・ボランティア
北薗いろは　中村香穂里